



## 前回（第1回）衛星設計コンテストの紹介

本コンテストは、学生の自由な発想による人工衛星のミッションと設計のアイデアを競うもので、昨年の第1回衛星設計コンテストに続く第2回目の開催となります。第1回衛星設計コンテストの最終審査会は、平成5年9月12日(日)「宇宙の日」に、科学技術館で開催されました。当日約120名以上の参加を得て成功裡に第1回目のコンテストを終了しています。一次審査をパスし最終審査会での発表を行った9件の優秀作品の中から以下の各賞が決定しました。

### 設計大賞

井澤 克彦、他 東京工業大学理工学研究科機械宇宙工学専攻  
「フリーフライング・ペイロード技術の基礎実験」

### アイデア大賞

若林 幸子 東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻  
「人工衛星を利用した総合安全システム」

### 日本機械学会宇宙工学部門フロンティア賞

宮崎 隆雄、他 東京工業大学理工学研究科機械宇宙工学専攻  
「宇宙花火衛星」

### 日本航空宇宙学会賞

大和 光輝、他 東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻  
「ブラシ機構によるスピン衛星の捕獲実験」

### 電子情報通信学会賞

渡辺 一尊、他 千葉工業大学大学院工学研究科電気工学専攻  
「鯨生態観測用小型衛星システム」

### 審査委員会特別賞

楡木 直人、他 東京工業高等専門学校電子工学科  
「微小重力下実験用小型衛星」

学生諸君の宇宙への熱意を具体的な「もの」に結実する一つのモチベーションを提供することにより、宇宙工学に対する理解を深めてもらうことと共に、宇宙工学の底辺拡大、新しい宇宙ミッションの発掘、さらには低コストな宇宙開発への気運の向上などを目的としています。宇宙開発委員会や宇宙開発の実施機関からも高い関心を寄せていただき、目的達成に向けて順調にすべり出しました。

最終審査会に残った作品は、理論的・技術的には多少甘いところもありましたが、そのアイデアの奇抜さ・大胆さやアマチュアなりの創意工夫には見るべきものがあり、「専門家の見過ごしていた点をついている」という審査委員からの声のできる力作ばかりでした。

学生の手による小型衛星の打上げは、アメリカ、イギリス、ドイツなどで既に実現されており、その方面では日本は立ち遅れていると言えます。このコンテストも将来的には、模型ではなく優秀作品を実際に製作し打ち上げることを目標としており、さらにそれを通して、このコンテストが日本における小型低コスト衛星打上げの機会を整備する気運を高めるものになることが期待されます。